



大野市教育委員会たより

令和元年7月19日発行 第12号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月16日(火) 午後7時～9時	次第 ・教育長挨拶
場所：阪谷小学校体育館	・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：阪谷小学校保護者(出席者8人)	・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎以前の給食試食会の時のご飯もおかずも美味しくなかった。民間に委託しているということだが、給食を配達しているからなのか。
 - ⇒ ■全小学校の給食は民間に委託しているが、配達ではなく業務委託であり、各学校の給食室で調理し提供している。中学校は市で調理師を雇用し、各中学校で給食を作り提供している。野菜は各地区の生産者から仕入れたりしている。
 - ⇒ ◎学校の栄養士には、その時の給食のことを伝えた。市保育園の給食は非常に美味しい。
 - ⇒ ■以前、学校訪問で阪谷小の給食を食べたが、その時は美味しかった。学校に伝えていきたい。大野の学校は昔から、自校式の給食で温かく美味しい給食を提供してきている。
- ◎学校再編におけるスクールバスの送迎はどのように考えているか。どこか1箇所に集合して送迎するのか。
 - ⇒ ■アンケートでは、再編で不安に感じることで一番多いのが、登下校の時間や距離、スクールバスや放課後子ども教室など、子育てに関係することである。スクールバスの運行計画案は現在はないが、再編計画の素案を示す時は、登下校の便数やバスの台数、運行経路も示し、意見を聞きながら進めたい。
- ◎学校再編はいつごろを予定しているか。早くやってほしい。子どもは複式学級にいますが、学校は勉強するだけではなく、社会性を教わる場所と考える。これから、子どもが中学、高校、社会に出たとき、人付き合いに苦労するのではないかと心配している。
 - ⇒ ■中学校1校、小学校2校の再編計画は急ぎすぎではないかなどの意見が多かった。今年は、しっかり意見を聞くことに努め、出来る限り早く、見直しをした計画案を示していきたい。
 - ⇒ ◎尚徳中の部活は何があるのか。部活を選択することができない環境は可哀想である。
 - ⇒ ■再編にはいろいろな意見があり難しい。大規模な学校で社会性を身につけさせたいという方もいれば、小規模で先生の目が届く学校で子どもを育てたいという方もいる。先行再編をしようという校区もあったが、いざ、再編となると保護者全員がまとまらずに出来なかったケースもある。市の再編計画を待たずに、阪谷小保護者がまとまり、先行再編していく方法もある。
 - ⇒ ■複式学級など児童が少ない学校での課題は、たくさんの意見交換が出来ないことである。その課題を解決するために、全校で話し合いをしたりしている。
- ◎学校再編を行うなら早い方がいい。再編計画策定の時と今の現状が同じであれば、じっくり進めてもいいが、大野の子どもが増加が見込めない中、運動会やクラブ活動などができない状況である。子どもがたくさんいる環境が良いと思っている。教育環境と並行して、大野の人口を増やすことも考えていかないといけない。中部縦貫自動車道の開通に合わせて、企業を誘致し労働人口を増やしていかないと、どんどん大野から人が出て行く。
 - ⇒ ■企業誘致をした際に、人材を集められるかという懸念が今の時代はあるようだ。
- ◎学校を再編しないといけないのか。校区は何のためにあるのか。なぜ、自分の子どもは阪谷小しかいけないのか。登下校の送迎を保護者がやることを前提に、富田小へ行くことはできないのか。好きな学校へ行かせてもらえればいいと思う。再編が難しいのであれば、校区を撤廃すればいいのではないのか。
 - ⇒ ■旧2町6ヶ村のエリアが今も校区に引き継がれている。
 - 再編の場合は、登下校などで各世帯に不公平が出ないようにしたい。校区を撤廃した場合、子どもが行きたい学校があっても、登下校で送迎出来る世帯、出来ない世帯で差が生じることになる。

- ⇒ ◎今の教育環境は良い状況ではない。阪谷小の子どもたちにも、有終西などと同じ環境を与えて欲しい。
- ⇒ ■決めるときは、スピード感を持ってやっていきたい。
- ◎スクールカウンセラーを学校に常駐してほしい。大規模校でも小規模校でも、自分から助けてと言えない子どもはいる。長期的に助けを必要とする子どもはいる。
- ⇒ ■市では、結の故郷教育相談員や支援員を常駐に近い状態で学校へ配置しサポートに入っている。
- ⇒ ◎相談員や支援員は決まった時間しかいない。突発的に助けを必要とする子どももいる。
- ◎保育園の時に、富田小へ行きたいと希望したが小学校入学前に「校区が違うから駄目だ」と言われた。今の状況は子どもにとって可哀想であり、早く再編をしてほしい。運動会でも徒競走や二人三脚などがなく競技が少ないし、チームもせめて3色あってほしい。修学旅行も人数が少なくて可哀想である。
- ⇒ ■1学級何人ぐらいがいいと思うか。
- ⇒ ◎先生の目が行き届く20人ぐらいかと思う。小学校が一気に大きくならなくても良い。富田小と阪谷小が早く一緒になってほしい。
- ◎六呂師小や森目小、蕨生小が再編した時に、市が事前交流などで子どものフォローをしてくれているが、保護者のフォローも必要である。
- ◎1クラスの人数は20から25人で良いが、1学年にクラスが複数ある方が良いと思う。クラス対抗などの競争の機会を与えたい。中学校1校、小学校1校でも良いと思っている。
- ◎小規模校と大規模校における学習面の能力の差は把握しているのか。
- ⇒ ■各学校の数値は序列化につながるため、公表していない。複式学級だから学力が低いということはない。年度によって差はあるが、大規模校だから常に学力が高いという訳ではない。どこの学校でも必要な学力をつけられるよう、大野市の教員全員が取り組んでいる。
- ⇒ ◎1人1人に先生が教えるのではなく、1人1人が失敗して気付いていく過程を阪谷の子どもは小さい時から踏んでいる。子どもの力や良さ、弱みを見ていくには、少人数でないと難しい。再編で小規模校の子どもの良さを潰すのであれば再編をやめて欲しい。競争も大事だが、学習に向かっていく力をつけて欲しい。その子に合わせた学習や声掛けがなくなってしまうのであれば再編は怖いと思っている。
- ⇒ ■競争するために再編するのではない。学習指導要領では、主体的な学びを意識している。困難なことにも立ち向かっていける子どもの育成を大事にしている。保育園では、遊びから失敗して学びにつなげていく力を時間をかけて養っているが、その力を小学校の教員も理解し、つなげていこうとしている。
- ◎六呂師小が阪谷小に再編される時は3人だった。その時の学校の様子は可哀想だった。自分も複式学級で育ち、授業の半分が自習で半分が学習だったが、中学校に上がったとき学習の面で困ったことはなかった。何年も先の子ども的人数が推測されているのであれば、それに合わせて中学校の再編を進めて欲しい。中学校で1クラスが成り立たない状況ではどうしようもない。
- ◎再編計画がある程度決まった時、当事者である子どもの意見を聞くのか。
- ⇒ ■小学校6年生と中学校2年生にアンケートを行ったところである。小学校6年生は小学校を振り返ることができるし、中学校のことも見えるだろうとの考えである。中学校2年生は、中学校を1年間過ごしたことで、部活やクラスのことを理解できるとの考えで、対象を選んでいる。
- ◎再編には賛成であり、進めてほしい。
- 六呂師小が阪谷小に再編されたことにより、六呂師地区では地域が寂しくなった、地域に活気がなくなったという感じはあるか。
- ⇒ ◎それはある。小学校があったから地区の運動会や地域の集まりがあった。(今はない)そこで交流があり、子どもの顔や名前を把握していた。
- ⇒ ◎阪谷地区の17行政区のうち、六呂師以外の地区が六呂師小へ来れば良いと思った。阪谷地区の1つの行政区として判断されたため、阪谷小への再編となった。
- ⇒ ■再編の時、児童が3人とのことだが、再編しなければ学校として続いていたのか。
- ⇒ ◎人数が少ないため学校としての運動会はなかった。地区の運動会と一緒にやっていた。学校として続けるのは難しい状況であった。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

